

〒192-00043 東京都中央区3-18-17 マルキ5F Email:kyodotable@gmail.com
連絡先 藤田高景090-8808-5000 石河康国090-6044-5729
https://www.kyodotable.com

共同テーブル「新しい戦前にさせない」第10回連続シンポ 経済の監視統制と軍事費大増強の危険な本質を暴く！

「経済版秘密保護法」は成立したが、
今から危険な「戦争準備」法にたちむかう 250人が思い新たに



文京区民センター3Aを参加者が埋め尽くしたなかで、司会の竹信三恵子さん（和光大名誉教授・共同テーブル発起人）は「経済の機密の監視をする法案が出され気味が悪いです。それも民間になんて戦前に戻るみたいに。今日はじっくりと学びましょう」と開会あいさつ。

主催者から佐高信さんが「私たちの秘密が保護されるのではなく権力者の秘密が保護される。戦争への地ならしになる」と挨拶。以下概要を報告します。

文責は事務局

社会人講談師の甲斐淳二さん 「房総・花物語」を熱演

戦時中、官憲の眼を盗んで、「花はこころのご飯」と懸命に花を守った母と子の物語。食糧増産のために花畑をつぶして芋などを耕作せよとの国の命令に背き、非国民と言われた人たちが、戦後の生きる希望の道を開いた物語。

甲斐さんは「これは過去の話ではない。いままた『花禁止令』が作られようとしている」と「食料緊急事態法」の危うさを訴えた。講談は共同テーブルHPで視聴できます。



司会の竹信三恵子さん



連帯挨拶する福島みずほ議員



連帯挨拶する川内博史議員

シンポジウム—悪法を多面的に解明

パネリスト／望月衣塑子さん（ジャーナリスト）、青木理さん（ジャーナリスト）
海渡雄一さん（弁護士）
コーディネーター／佐高信（共同テーブル発起人）



日米一体を煽るメディア 望月衣塑子さん



「経済版秘密保護法」を推し進めたのは「岸田首相が権力を維持するために米国の意向に従ったためだ」と指摘。「一番酷いのはメディアだ。安保のため日米が一体だというメッセージばかりだが、アメリカが行く戦争に日本の自衛隊がついてゆくということを言っているようなもの」だという。

こういうメディアの論調を主導しているのは元朝日新聞幹部の船橋洋一氏で「彼のシンクタンクを支えているのはアメリカの軍事産業だという。アメリカ型軍産複合体を進めて、私たちが戦争に引き込もうとしている」。

こうした主張を展開するメディアの黒幕は他にも、日経新聞社で会長を務めた喜多恒雄氏などがいると指摘。

大川原化工機事件と秘密保護法 青木理さん



「戦後の公安警察の存在意義は反共だったが、冷戦構造が崩れて新たな存在意義を見つけようとして、テロ対策や経済安保で何か手柄をあげないといけなくなった。かなり無茶をして大川原化工機事件をおこした。そもそも犯罪が成立しない事案について、会社の代表者らが逮捕・長期勾留され、第1回公判の直前に検察官が公訴取消しをしたという考えられないえん罪事件だ。

治安維持法から今回の経済版秘密保護法につながってる。公安、検察は白黒関係なく逮捕できれば良いと思っている」。

立て続けに戦争準備法の強行一実施を阻もう 海渡雄一さん



米国は米中衝突を避けるために緩衝地帯である日本に中国と戦わせようとしている。

経済安保法の狙いは、半導体など重要製品のサプライチェーンと基幹インフラを多元化することとし「日本は製品のかかなりの部分の原料を中国から輸入しており、この法律によって政府は基幹インフラ企業から中国製ITを一掃することを狙っている」。「当然、中国から対抗措置が取られ、日本への輸出を停止することが起こる」。しかし、「日本がアメリカの尻馬に乗って中国をいじめているなんて国民は知らないから、中国を許すまいという雰囲気を作られて、日中戦争へと発展してゆく芽になるのではないか」。

「特定秘密保護法の適性評価は主に公務員が対象だが、今度の「経済版秘密保護法」は民間人が対象となる。中小企業も含め国家機密と縁のないはずであった人たちが突如、適性評価の対象とされる。AI技術や脳科学の研究者などが適性評価の対象とされる、主要なインフラ企業のIT技術者や、中国から輸入が難しくなった物資の輸入業務に関連する民間企業の従業員なども対象とされ、そのプライバシー侵害はより深列だ」。

「評価対象者の家族、同居人の氏名、生年月日、国籍、住所、犯罪および懲戒の経歴、薬物の濫用および影響、精神疾患、飲酒についての節度、信用状態その他の経済的な状況などの諸事項について調査を行う」と明記してある。

「戦前も秘密体制づくりから戦争準備が始まった。2013年の秘密保護法、17年共謀罪法、21年経済安保法、そして今回の経済版秘密保護法などの流れは、戦前の『戦争体制準備法』の流れとほぼ同じ。とても危ない状況だ」と指摘。

そういうなかで、立憲民主党が経済安保法、「防衛産業」強化法に続き今回も賛成したのは残念だと直言。「成立したがこれからその実施を監視し阻む行動をおこそう」と提起した。

会場から質問—自民党はガタガタなのに何故？

会場からの質問では「自民党がこんなにガタガタなのに、なぜ戦争準備の悪法が国会でスイスイ通るのか」など、「政治資金規正法」議論のかげで恐ろしいことが進んでいることに、だれもが抱き始めた疑問も出された。

これに対し望月さんからは、防衛省の有識者会議の顔触れや、日米間でのっぴきならないところまで軍事的連携が既成事実化していること、海渡さんからは戦前もメディアが輿論誘導の役割をはたしてきたこと、が指摘された。

秘め事にふみこむのは「戦争の地ならし」——佐高信



政府は本来私たちの秘密に踏み込んじゃいけない。しかし彼らは裏金のような秘め事はかばうけれど、我々の秘め事には踏み込んでくる。まさに戦争の地ならしということだと思います」とまとめて、9時に閉会した。

第10回シンポ参加者感想

天野真理子 甲斐社会人講談師のお話しもおもしろかった。今回のシンポのタイトルに緊張していたが、リラックスできた。とってもおもしろかったです。

匿名 安倍政権→岸田政権迄、閣議決定で、次々きめられるが、20名ほどの大臣が決定したメンバーが（例えば裏金一つをとってみても）悪事を重ねている。無効のはずと思うが、なんとか取消す方法はないですか???

柴田まさみ 大切なのは2015年以降、いままで何が起きたのか、戦争に向って何が起きているのか、体系的にもう少し整理することが大事ではないでしょうか。

今回は夜開催でしたが、最近昼開催が多かった。夜開催でないと若い現役世代には広がらないと思う。例えば、貧困、戦争準備、人権問題などの「ショートリール動画」をつくって流してはどうでしょうか。

第11回連続シンポジウム・予告

「共同親権」という名の24条改憲にご注意

第11回シンポは、今国会で「スピード」審理であつという間に可決成立してしまった「共同親権」民法改悪。今、疑問と不安がひろがっています。あらためてその危険性を明かにします。

7月26日（金） 午後2時～5時（予定）

会場 衆議院第一議員会館地下大集会室

企画内容は後日、「共同テーブル」HPにアップします。